

あの時いわれた

ひとこと

一言が

今じゃ心の

道しるべ

忠告を聞ける心を

他人に自分の欠点を指摘されるのは、決して愉快なことではありません。時には「余計なお世話」と腹のたつことさえあるでしょう。

しかし、こちらのためを思っていて言ってくれると感じたら、あまり我を張るのは考えものです。やたら、拒否反応を示すばかりでは、「この人は度し難し」と、相手からソツポを向かれてしまいます。

《度す^ど》とは《救う》という意味の仏教語です。いくら、仏様のよきな人でも、相手にその気がないと救う手立てがありません。

欠点は誰にでもあります。それも、他人から指摘されて初めて気づく場合が多いのです。心に「よくぞ注意してくれた」というゆとりを持ちましょう。そう心がければ、たとえ悪口と思える言葉でさえ、こちらの受け取り方しだいで善言にも転じてくるのです。ひよつとしたら、恨む気持ちは消え、感謝の念さえ起きるかもしれません。

あの時いわれた一言に、いつまでもこだわるより、今まではそれが心の道しるべになったと思える生き方を求めてください。《人間、いわれるうちが花》という言葉もあるのですから。